



小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の花と実 / 理解シート

パイナップルに、花はあるの



くだもの
果物のパイナップルは、たくさん集まった花の下の部
分がくっついたものだよ。外側に、たねもできるのさ。

1つのパイナップルに、花は約150個ぐらいつく

パイナップルには花があるから、実ができ、たねもできます。

パイナップルは成長すると、1mぐらいのびたくきのでっぺん近くに、約150個の小さな花が上から下へ丸く円をえがくように、びっしりつきます。

小花は、下の方から順にさいていき、たねもできます(さいばいしているものは、薬などを使って、いちどに小花がさいてしまうようにしています)。小花は、3まいの花びらとがく、6本のおしべと真ん中に1本のめしべがあります。

果物のパイナップルは、たくさんの花の下の部分がくっつきあったもの

果物のパイナップルは、うろこのようなかたい皮につつまれていて、中を割ると、真ん中にふといしんがあります。うろこのように見える皮の部分の1つ1つが、小さい花だったもので、はば2mm、長さ5mmぐらいたねができます。

中のしんは、花がついていたえの部分で、おいしいしるがつまった部分は、小さい花の子ぼうや、花たくとよばれる部分などがくっつきあってできたものです。だから、果物のパイナップルは、小さい花が集まってできたものです。

ふやすのには、たねは使わず、実のでっぺんの部分から出ている芽や、葉のわきから出る芽、地下にのびたくきから出る芽などを、なえに使います。

